

平成31年度・令和元年度 嬉野市立塩田小学校 学校評価結果

1 学校教育目標 元気に がんばる 塩田っ子の育成	2 本年度の重点目標 ①思考力・表現力の向上(校内研究の推進) ②主体的で 対話的で深い学びを目指す授業改善 ③主体的学習習慣の確立(家庭学習・自主学習) ④心の教育の推進(挨拶、言葉遣い、いじめ防止) ⑤新学習指導要領の完全実施に向けたカリキュラム・マネジメント(道徳科・英語科・プログラミング教育等) ⑥特別支援教育の推進(理解の推進、支援体制の充実) ⑦体力の向上(運動機会の確保と生活習慣の形成) ⑧保護者や地域との協働による体験活動の推進 ⑨勤務時間とワークライフバランスを意識した効果的な働き方の推進
--	--

達成度
 A: ほぼ達成できた
 B: 概ね達成できた
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

3 目標・評価

①思考力・表現力の向上と主体的学習習慣の育成を図り、学力の向上を目指す。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・学習内容が理解できるように、アンケートで「授業の最後に振り返りを行っている」と答える児童が80%を目指す。	・1単位時間の終わりに、代表児童による振り返りを発表させる。 ・本時のまとめの後に、学習の振り返りをノートやワークシートに記述させる。	B	・アンケートで「授業の最後に振り返りを行っている」と答えた児童は80.1%で、わずかながら目標を上回った。どの学級でも、日直の児童が授業の最後に振り返りを発表する姿が見られ、授業の振り返りが習慣付いていることが分かる。特に5年生では、①本単位時間のめあて②本時の内容③次時の見通し・今後の活用方法、という3つのポイントで振り返りを行うことで自己を見つめることにつながっている。 ・ノートやワークシートに振り返りを書かせることは大切であるが、時間の確保が難しく徹底できていない。また、書くことが苦手な児童には短時間で振り返りを書くのは難しい。どの児童も限られた時間で授業を振り返ることができるよう、その方法や形式を考えていく必要がある。	・1単位時間の終わりに、代表児童による振り返りを、どの学年も①本単位時間のめあて②本時の内容③次時の見通し・今後の活用方法の3つのポイントを押さえてから振り返りを発表させていくようにする。 ・ノートやワークシートへの振り返りは短時間でできる振り返りシートなどの作成をプロジェクト内で検討していくようにする。
	●学力の向上	思考力・表現力の向上	・アンケートで、「自分の言葉で思いや考えを表現することができた」と答える児童が80%以上を目指す。 ・校内研究のアンケートで、「語彙指導を工夫したことで、思いや考えを表現する力が年度当初より高まった」と答える職員が80%を目指す。	・各担任で作成した語彙指導の年間計画に基づき、授業実践、日常生活での活用を継続的に行う。 ・校内研究計画に基づき、語彙指導に関する情報交換を行う。 ・西部型授業の流れを常に意識して実践し研究授業も西部型スタイルで行う。 ・国語タイムにおいて、月1回以上、語彙力向上のための問題プリントに取り組ませる。	A	・アンケートの項目で「自分の言葉で思いや考えを伝えることができた」と答えた児童が84.4%で、達成できた。 ・アンケートの項目「校内研究や研修会を通して、子どもの語彙力が向上するよう工夫している」と答えた職員が80%で、達成できた。校内研究の語彙に関する事前・事後の調査結果分析より、全学年で児童の語彙数の増加、言葉の使い方の正確性が増えていることが分かった。	・自分の思いや考えを表現できるように、内容や書きぶり等について、児童による範例や教師による具体的なモデルを示す。 ・授業だけでなく、日常生活において、学習した語彙や言葉をいろいろな場で活用させる。 ・継続的に取り組ませることでさらに意欲を持たせる。
学校運営	●学力の向上	主体的学習習慣の育成	・学年ごとの家庭学習時間(学年×10分+10分)を達成できる児童が80%以上をめざす。 ・ノーテレビ・ノーゲームデーに取り組む家庭が80%以上をめざす。	・主体的学習習慣づくりのため、「家庭学習の手引き」の活用を進める。 ・児童が自ら家庭学習に取り組む意欲を高めるため、自学ノートコンクールを年2回以上開催する。 ・毎月1日前に、ノーテレビ・ノーゲームデーをお便りとマチコミメールで呼びかける。お便りには、達成率や家庭の取り組み状況を掲載し推進を図る。 ・「学期末のまとめテスト」に合格(100点)するまで取り組ませる。	B	○家庭学習について、学校評価アンケートでは、児童回答では84.4%と目標達成ができたが、保護者回答は72.3%と達成することができていない。児童と保護者との意識の違いが見られた。 ○ノーテレビゲームについては、毎月実施後の児童へのアンケートでは、年度当初は実施率約70%程度であったが、年度末では実施率約85%へと上昇してきた。このことは、毎月学校より便りを出したり担任の声掛けが功を奏したりしていると思われる。ただ、教育評価アンケートの保護者回答は、約64.8%であり、家庭学習同様、意識の違いが見られた。 ○学期末のまとめテストでは、各学年、各教科毎に100点(合格)するまで取り組ませることができた。	○家庭学習については、家庭(保護者)の協力があることで初めて成立するので、担任と保護者が連携しつつ、宿題の内容や量の再考も必要である。また、個に応じた指導をしていく。 ○ノーテレビノーゲームについては、これまで通りお便りや担任の声掛けを通じて啓発していく。また、担当者からもノーテレビノーゲームのよさなどを伝えるなどして実施を進めていく。 ○学期末のまとめテストだけでなく、単元終了後の評価テストなどで再度取り組ませ、学習内容を身に付けさせるようにする。

②挨拶・いじめの未然防止等の取り組みと特別支援教育の推進を通して、心の教育の充実を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	評価及びその理由	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	道徳教育の推進	・アンケートで「学校は道徳など心の教育に積極的に取り組んでいる」と答える保護者が85%以上をめざす。	・年1回以上、道徳の授業を公開する(9月の授業参観で、全学級「ふれあい道徳を実施する。) ・ふれあい道徳の前後に、担任の願いや保護者の感想を、お便りにして保護者や地域に知らせる。 ・道徳の資料やワークシートはファイルに保存し、生活や評価に生かす。	A	・アンケートで「学校は心の教育を積極的に行っている。」と答えた保護者が97.8%で、目標を上回った。 ・9月のふれあい道徳の前後に、各クラスの授業の内容や保護者の感想を知らせることで、本校の道徳の授業に関しての関心が高まった。	・道徳の授業だけでなく、人権教育や学校生活全般で道徳の意識を高めさせる。
	●心の教育	豊かな人権意識の育成	・アンケートで「あいさつができて」と答える児童・保護者が共に85%以上をめざす。 ・アンケートで「友達にも思いやりの気持ちを持ち、なかよくしている」と答える児童・保護者が共に85%以上をめざす。	・「あいさつ」を年間を通した生活目標とする。 ・あいさつの仕方(声の大きさや態度など)について具体的に指導するとともに、日頃から地域の人への積極的なあいさつを呼びかける。 ・人権集会や平和集会の内容を充実させる。	A	・アンケートで、「あいさつができて」と答えた児童が92.9%、保護者が87.1%で目標達成している。ただ、児童と保護者のアンケート評価にずれがみられる。 ・アンケートで、「友達にも思いやりの気持ちを持ち、なかよくしている」と答えた児童が、96.4%、保護者が96.4%で、児童・保護者共に、大きく目標を上回っている。担任の指導や集会等によって、人を大切にするという人権感覚が育っている。	・登校班長を中心に、あいさつの意識を高めるように声かけ指導を行う。 ・学校や地域で気持ちのよいあいさつができるように、継続して声をかけていく。 ・本年度の取り組みを継続して行い、人権集会や平和集会で、外部人材の活用も積極的に平たい。

教育活動	●いじめの問題への対応	いじめの未然防止・早期発見	・アンケートで「学校が楽しい」と答える児童・保護者が共に95%をめざす。	・「心のアンケート」を毎月1回実施し、いじめの早期発見に努める。 ・児童理解のために、月1回の情報交換を行う。 ・教育週間(11月:45分×3日間)を実施し、児童の実態把握に努める。 ・年2回のQUTテストを実施し、夏休みに職員研修を行う。	B	・アンケートで「学校が楽しい」と答える児童が85.2%、保護者が92.1%で、児童と保護者の評価に差があり、児童・保護者共に、目標の95%に達成できなかった。 ・毎月「先生あのお・心のアンケート」を実施し、児童の相談があれば、担任や他の職員が話を聞いて実態把握や児童理解に努めている。いじめととらえられる案件は上がってきていない。 ・月1回、児童理解のための情報交換会を行うことで、いじめの早期発見につなげている。	・「学校が楽しくない」と理由を探って、対策を講じていく。 ・「学校が楽しくない」と答えた児童には、アンケートの中に理由を書かせるようにする。 ・教育相談週間(45分×3日間)を設けることができたので、次年度にも続けたい。
	○特別支援教育の推進	特別支援教育の支援体制の構築	・アンケートで「困り感を持つ児童に対して、きめ細やかな指導・支援を行うことができている」と答える職員が85%以上をめざす。	・特別支援学級や通常学級に在籍する支援を要する児童の情報交換を、年5回(4月、5月、学期末、11月、学年末)に行う。 ・特別支援教育に関する研修会を年1回以上開く。 ・児童の実態を把握し、保護者、SC、教育相談員、関係機関との連携を図る。	A	・アンケートで「困り感を持つ児童に対してきめ細やかな指導支援を行うことができた」と答えた職員が87.5%で、目標を達成した。 ・特別な支援を要する児童の担任が校内の職員と協力し、保護者との連携もとれ、校内での学習環境を整えることができた。SC、教育相談員、巡回相談員や医療機関との連携が図られた結果である。 ・通常学級で困り感を持つ児童の指導支援のあり方をさらに研修し、教師間の考え方にズレが生じないようにしたい。	・今後も、月1回の情報交換会を行う。 ・必要に応じて、随時ケース会議を開いたり、巡回相談等専門機関との連携を深めたりする。
学校運営	○教職員の資質向上	教職員としての言動に責任をもった児童理解と生徒指導力の向上	・アンケートで「児童理解と生徒指導力の向上に努めることができた」と答える職員が90%以上を目指す。	・月に1回児童理解のための情報交換会を行う。 ・年に2回の研修会を行う。 ・教育相談週間(11月:45分×3日間)を実施し、児童の実態把握に努める。 ・教職員として児童理解に立った言動に努める。	A	・アンケートで「児童理解と生徒指導力の向上に努めることができた」と答える職員が100%で達成できている。 ・夏休みに講師を招き、研修会を実施した。	・今後も毎月、第3火曜日の連絡会を児童理解・支援のための「情報交換会」として続けていく。

③運動会への確保・奨励と体験活動の充実を通して、体力の向上と自主性の伸長を目指す。

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	評価及びその理由	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	運動会への確保と運動の奨励	・アンケートで「体育や運動が楽しい」と答える児童・保護者が共に90%以上をめざす。	・佐賀県版の「体育の学習」を活用し、指導方法を工夫して授業を行う。 ・スポーツチャレンジに積極的に取り組む。 ・水泳大会、マラソン大会、なわとび大会を計画的に実施し、記録に挑戦するよう働きかける。	A	・アンケートの結果では、運動が楽しいと答えた児童が91.5%、子どもは運動を楽しんでいると答えた保護者が93.5%で、目標を達成できていた。外遊びの奨励や、マラソン大会やなわとび大会等の体育的行事で1人1人に目標を持たせて達成感を味わわせたこと、県が主催しているスポーツチャレンジに学級単位で積極的に取り組んだことなどが効果的であったと考える。 ・なわとび大会の前にジャンピングボードを設置したことで、児童が意欲的になわとびを跳ぶようになり、その結果、外で遊ぶ児童が増えた。	・学年によって、スポーツチャレンジへの参加率に差があった。他学年の取組を紹介するなどし、参加率を上げるための手立てをとっていききたい。 ・縦割り遊びのはつらつタイムで、縦割りグループでの8の字跳びを行っていききたい。
		望ましい生活習慣の形成	・アンケートで「『早寝・早起き・朝ごはん』が実践できている」と答える児童・保護者が共に80%以上をめざす。 ・アンケートで「手洗い・うがい・歯磨き」が出来ていると答える児童・保護者が共に90%以上をめざす。	・生活・学習がんばりカードで、8月と1月の年2回、「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」をチェックする。 ・ほげんだよりで「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」を呼び掛ける。 ・養護教諭と担任が連携し、手洗い・うがい・歯磨き等の生活習慣に関する保健指導を各学級で行う。 ・布団に入る目安を提示し、お便りなどで呼びかける。	B	・アンケートの結果、早寝・早起き、朝ごはんについてはできたと答えた児童が90.1%、保護者が80.6%で、目標を達成できていた。 ・手洗い・うがい、歯磨きについては、できていると答えた児童97.2%であったが、保護者は88.5%で、わずかに目標を達成できなかった。 ・養護教諭と担任が連携して早寝・早起き、朝ごはん・朝うんちを呼びかけたことや、「生活がんばりカード」を年に2回実施したことは、児童や保護者の意識を高めることに効果的であったと考える。 ・「生活がんばりカード」に早寝・早起きの目安時間を提示し、個人で目標を立てさせたことで意識して生活する児童が増えた。	・今年度、「生活がんばりカード」の記入の仕方を変更したり、早寝・早起きの目安の時間を提示するなどの改良を行ったことが児童の意識を高めることにつながったので、今後も随時、改良をしていく。 ・養護教諭を中心とした健康に関する事項の呼びかけや、衛生検査等の活動は、今後も継続していく。
	○自主的活動の推進	自己有用感を育む体験活動の充実	・アンケートで、生活科・総合的な学習の時間や学校行事が「楽しい」と答える児童が80%以上をめざす。	・生活科や総合的な学習の時間において児童の興味・関心を生かした体験活動や表現活動を多く取り入れる。 ・各学年で、外部や地域ボランティアと連携した学習活動を年間2回以上行う。	A	・アンケートの結果、生活科・総合的な学習の時間や学校行事が楽しいと答えた児童が90.1%、学校は体験活動の充実に向けていると答えた保護者は98.6%で、目標を達成し、多くの児童・保護者が肯定的であることがうかがえる。 ・体験活動で学んだことをよかとこ祭りで発信したこと、年間を通じて地域コミュニティを中心とした外部講師と連携した活動に計画的に取り組んだこと等は大変効果的であった。	・今後も引き続き地域コミュニティとの連携を密にし、児童の自己有用感を育めるような体験活動を計画的に実施し、内容も充実させていきたい。

④保護者や地域への学校教育活動の公開に努め、理解や協力を得る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	評価及びその理由	具体的な改善策・向上策
学校運営	○開かれた学校づくり	授業・行事等を公開し、保護者や地域と連携した学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・学級だよりなどで学校の様子をよく知らせ、授業参観や行事の参加率が85%以上をめざす。 ・地域と連携した取り組みについて、「協力した取り組みができています」と答える職員・保護者・学校運営協議会委員が共に85%以上をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりやホームページを活用し、コミュニティ・スクールの取組(各学年が取り組んだ地域との連携活動等)について積極的に情報を発信する。 ・年間行事計画に加えて、授業参観や行事等について早め(1か月以上前)にメールや案内をすることで、保護者が参加しやすいようにする。また、委員を招待し、参加してもらう。 ・本校の取組の成果と課題について、第3回の協議会において学校運営協議員と職員(P会代表)が協議する機会を設定し、共通理解と問題解決を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートで「学校・学級だよりなどで学校の様子をよく知らせている」が99.3%、「積極的に学校行事に参加している」が92.8%であった。実際に授業参観や学校行事の参加率も85%で目標を十分達成している。地域と連携した取り組みができていますと答えた保護者97.8%、職員88.3%で目標を上回っている。これは、地域コミュニティとの連携活動が充実し、地域の方々からの積極的に協力をいただいていることもあり、大きな成果である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域連携活動と、教科等との横断的なカリキュラムを見直しながら、体験活動の充実を図っていく。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	教職員の働き方に関する意識改革を行い、児童とむきあう時間を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どものと向き合う時間が増えた」と答える職員を75%以上にする。 ・役割分担やプロジェクトの役割を効果的に活用し協働意識を高め、職務の効率化と指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・OJTや会議で情報交換や協議を行い、共通理解に基づいた協働を推進する。 ・前年踏襲だけではなく、現在の学校の現状にマッチした取り組みを考えながら、校務全体を見直す。 ・市内一斉定時退勤日(第3水曜日)は、18時00分全員退勤完了を目指す。また、第3を除き、毎週金曜日を校内定時退勤日として、ワークライフバランスの意識を高める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員室で児童の情報交換や指導法についての話が日常的に聞かれた。課題については複数の職員で対応し、相談しながら進めることができた。 ・アンケートの回数を減らしたり、行事の精選をするなど、昨年度よりスリム化することができた。朝の交通当番をPTAに任せ、教室で児童を迎え指導することが出来るようになった。 ・体験活動の位置づけが教科以外になると、時数確保が難しく負担感も大きい。 ・職員の時間外勤務時間は、昨年度比3パーセント減、年休取得が1.4倍と時間を意識した働き方の工夫が見られた。しかし、定時退勤推進日は、パソコンで「蛍の光」を流したりポスター掲示をしたが、あまり守れなかった。学校施設が19時を過ぎることが多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間の中で、教育活動を充実させる。地域との体験活動は、カリキュラムの中に入れ込み教科の授業として充実させる。 ・プロジェクトをさらに機能させ、校務分掌のアンバランスを是正する。 ・定時退勤日は、時間を意識し、声をかけあう。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

○3つのプロジェクト構成で学校経営方針に基づいた評価項目、目標、方策等はもちろん、評価についても各部会・全職員で行った上で、部長が学校運営協議会で結果報告をするなど、全職員の学校運営への参画意識は高まっている。また、学期の初めと中間に、各プロジェクトから児童へ目標や方法を具体的に説明する等、学校全体で取り組む体制もできてきた。月1回、定期的にプロジェクト会議を実施し行事の立案や実践に向け協働する体制が整っている。

○校内研修では、表現力の下支えとなる語彙力に着目し教材での指導と日常の指導を行った。嬉野メソッドによる授業改善を行い、全国・佐賀県の学習状況調査では一定の成果が伺えた。基礎・基本の定着を目指した算数・国語タイムでは、地域のボランティアで丸付けの協力を得た。子どもを見守る環境が学力の基盤を支えている。

○特別支援教育の体制づくりが整い、外部専門機関との接続や定期的な校内研修により、全職員が共通して児童の教育的ニーズに対応した支援ができています。

○運動や食育の大切さを指導しながら、水泳大会、マラソン大会、なわとび大会、スポーツチャレンジ、縦割共遊等の活動を計画的に実践していることで、児童の体づくりや仲間意識の醸成につながっている。

○6年目を迎えたコミュニティ・スクールは、地域コミュニティとの連携を密にし、児童の豊かな学びがさらに深まり、地域連携教育に関する職員の意識も高まっている。

- ▼道徳の教科化をはじめ、新学習指導要領の完全実施に向けたカリキュラム・マネジメントなど、これまで以上にPDCAサイクルを意識した教育課程の編成が喫緊の課題と考える。
- ▼地域連携による教育活動は充実しているが、限られた時間の中で無理のない運用に加え、家庭、保護者を巻き込んだ体験や教育活動を展開し、児童の豊かな学び、安心できる教育環境づくりを進めていきたい。
- ▼ふれあい道徳、人權教室、縦割り活動等、様々な児童の心耕しを行っている。今年度のいじめ認知は4件、認知は0件だった。早期に対応できたことは、いじめ防止に対する高い意識を持って全職員で対応している成果と見ることできる。このことを真摯に受け止め、「魅力ある授業づくり、児童との絆づくり、保護者との信頼づくり」を柱に、これまでの取組の見直し・早期発見、早期対応に向けた体制作りを強化して行く必要がある。
- ▼業務改善・教員の働き方改革では、教員の協働意識が高まり効率化を意識するようになった。しかし、時間外勤務は、改善の余地がある。定時退勤推進日には、全員が早めに帰宅するよう努力したい。